

2017年度 年会報

未来へつなぐ「今」の創造

公益社団法人一宮青年会議所

「一年間を振り返って」 理事長 服部 良太

2016年5月30日、第2回理事長候補者・監事候補者選考委員会で理事長候補者となった瞬間から数えると19か月。あっという間の時間でした。これまでの時間を振り返ると感謝の言葉しかありません。これまでのJCライフの中でも、その時々タイミングで感謝することはたくさんありました。でもそれとはまた違う感謝の気持ちです。青年会議所の1年の活動は理事長所信をもとに構成されます。ですから2017年という1年は私が考えた方針を皆さんに形にしてもらいました。よく理事長は大変ですよねと言われます。確かにJCに割く時間は多いかもしれません。しかし、その裏で陰ひなたとなって私の想いを形にするため、見えないところで多くの時間を使い、せっかく作り上げても、様々な意見により、ゼロからスタートする。そのような多くの時間と労力を使っていたいただいた理事会構成メンバーを始めとするすべての一宮青年会議所の皆さんのことを思うと大変だなんて考える余地はありませんでした。役員選出総会でもお話ししましたが、この1年、皆さんにとって誇りでありたいという気持ちでいつもおりました。現役として在籍しておりました3名の歴代理事長はもとより、私にとって誇りであり続けた木村憲彦歴代理事長のように、理事長をお受けすると決めた瞬間から一番意識してきました。ただ、真似をするのではなく自分なりのやり方を模索しました。



一宮青年会議所のことを考えると近年、メンバー間に距離があると感じておりましたので、距離を縮めるためにfacebookを活用してお互い何をしているのかを共有したいと思い、まずは自分が発信しようと初めて投稿してみました。想定では多くのメンバーが今ある状況やお願いをする活気あるものになるだろうと思っていましたが、あまりにも私が投稿してしまったので、結果的に皆さんに気を遣わせてしまったのではないかと反省しております。もう一つに例会が終わった翌日に委員会メンバーへお礼の電話をさせていただきました。冒頭あるように常に感謝しておりましたし、委員から理事長への電話は出来なくても理事長からは誰に対しても電話できますので逆手にとってやってみました。これに対しては理事長としての威厳がなくなるとか賛否様々あるかと思いますが、非効率の中にある大切なものと自分なりというところで距離を縮める方法として実行しました。足りないところばかりで皆さんにとって誇りあったとは言えないかも知れませんが、少しでも影響を与えることが出来ていたならば幸いです。

2017年最高に幸せな年でした。本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

副理事長兼専務理事 加藤 貴恭

まずは、メンバーの皆様に一宮青年会議所という歴史と伝統のある組織の中で 2017 年という特別な年に LOM で理事長と同じく 1 人しかいないこの専務理事という貴重な役職を拝命し、経験をさせていただいたことに感謝申し上げます。

一宮青年会議所の専務理事は他 LOM の専務理事とは違い、副理事長の小間使いではありません。歴代の専務理事より受けた引継ぎではありますが、理事長の良き隣人であり、良き頭脳であり、良き手足でなければなりません。対外的にも西尾張の親 LOM として、ナンバー8 の LOM として活動をしていかなければなりません。私自身、今までの活動の中で得られた経験だけでは全うできないのではないかと。という重責はありましたが、服部理事長と特に候補者期間に多くの時間を過ごさせていただき考え方、LOM に対する想いを共有させていただき活動をさせていただきました。結果として、職務を全うできたのか定かではありませんが 2017 年度を無事に終えることができて安堵しております。



また、私のもとで活動をしていただきました光樂事務局長、野田委員長を始め次長、スタッフ、委員会メンバーにも感謝申し上げます。特に本年は東海地区協議会に野村晃充君を会長として輩出し事務局を担い、JC 青年の船とうかい号では団長ということもあり他 LOM から注目を浴びる LOM であったため例年にはない苦労をお二人には掛けたことと思います。共に 2018 年度は一宮青年会議所で大役を務めていただく立場になるので本年経験したことを苦労で終わらせるのではなく自分自身の血肉にし、後輩たちに伝えていただければと思います。また、専務室より高垣君と田中君が 2018 年度理事、委員長として LOM で活動してもらえることに嬉しくもありこの 2 名を育ててくれた光樂事務局長、野田委員長に改めて感謝しています。

1 年間皆様と共に活動できたことを感謝しております。ありがとうございました。

「一年間を振り返って」

副理事長 坂井田 純子

2017年度副理事長兼地域づくり室室長という大役を務めさせていただきました服部良太理事長には心より御礼を申し上げます。また、一年間サポートを頂きました地域のブランド醸成委員会の皆様、そして全てのメンバーにお支えいただきましたことを感謝申し上げます。

初めての副理事長職、そして、初めての社会開発担当に本年に臨みましたが、携わったことがなかったため、至らぬ点も多々ありました。青年会議所で活動するからには、当然この地域のためという思いで必死に2017年を駆け抜けてまいりましたが、振り返ってみますと、自己の成長はあったのだろうか、疑問が残る年となってしまいました。また、副理事長として、服部理事長をしっかり支えることができていたのか、率先して行動する姿勢を示すことができていたのか、あるいは室長として適格なアドバイスができたのか、次世代の役職者を育成できていたのか。どれにおいても達成できておらず、非常に反省ばかりが思いだされます。特に大きな反省点としては、卒業年度の福田晋也委員長への対応です。スタッフ運営、委員会運営に苦勞していたにもかかわらず、担当室長として支えることができませんでした。卒業年度にこの重役をお願いしたことを後悔した日もありました。ですが、しっかりと最後まで重責を務めあげていただきましたことに感謝の言葉しかございません。



そして、なにより委員長の想いのこもった2回の例会、2回の公開事業の開催にあたり、福田委員長をお支えいただきました委員の皆様には、ご迷惑をおかけしたのにも関わらず、最後までお付き合いいただきましたこと、この場をおかりして御礼申し上げます。

4月の例会を皮切りに『一宮ブランド』の醸成。138ハロウィンと一宮めし「どてカラ丼」の認知度向上こそが、一宮市への誇りと愛着につながり、私たちが住み暮らす一宮市が更に明るい豊かな地域へとなっていくという信念はこれからも地域のブランド醸成委員会メンバー全員が持ち続けていくと確信しております。

私自身、一宮青年会議所メンバーとして活動ができる時間も残り4年となりました。その4年間、どの委員会に配属されても『一宮ブランド』へ愛着を持ち続け活動してまいります。

最後に重ねてにはなりますが、私に副理事長兼地域づくり室長の職をお預け頂きました服部理事長をはじめお支えいただきましたメンバーの皆様。感謝申し上げます。1年間、本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」 副理事長 平松 道介

2017年度会員向上室室長兼副理事長という大役を服部良太理事長より拝命させていただきました。1年と半年その大役を全うして参りました。しかし、しっかりと実行できていたとは到底言えませんが、服部理事長、また一宮青年会議所メンバーにはこの素晴らしい機会をいただけたことに本当に感謝しております。

服部理事長よりお話をいただいた時は、自分自身本当にこのような大役を1年と半年全うできるか不安でありました。しかし、服部理事長のために、また昨年公益社団法人日本青年会議所に出向させていただいておりましたので、その経験を少しでも一宮青年会議所に還元するために、自分のできることを全うしたいと言う一心でこの大役を拝命させていただきました。

スタートしてみると会員向上室室長兼副理事長と言う役職は本当に難しい役職であると実感させられました。人に伝えることの難しさ、自分でやるのではなく、人を動かすことの難しさ、副理事長として室長としての立ち振る舞いの難しさを知りました。自分がやって欲しい事や他の副理事長からの意見をどう伝えればよいのか。いつも考えながら役職を担当させていただきました。しかし、伝えるべきことをしっかりと伝えられなかったり、厳しく言わなくてはならないことを厳しく言えなかったりと、自分自身が一番に修練を積み重ねなければならないことから逃げてばかりいました。その結果、委員会運営がうまく行えることができませんでした。2人の委員長及び委員会メンバーの皆様にはご迷惑をおかけしました。



会員向上室では2つの委員会を担当させていただきました。真のリーダー育成委員会は服部理事長が2017年度の一宮青年会議所として1丁目1番地と位置付けていただき、とてもプレッシャーの感じる中、人間力の事業を実施していきました。服部理事長の思い通りの委員会運営ではなかったかも知れませんが、青木委員長を始めと致します委員会メンバーとともに議案を試行錯誤しながら行って参りました。

またもう一つの委員会は秋田委員長の担当でありますLOMの基盤構築委員会であります。名前の通りLOMの基盤となるメンバーの育成と拡大であります。会員の拡大ではなかなか結果が出ず、申し訳御座いませんでした。またメンバーの育成として、11名の入会予定者のうち7名が正会員となりました。結果としては良くありませんが、正会員となったメンバーは将来の要職に就くことのできる、一人一人の能力がとても高いメンバーであると自負しております。

最後になりますが、改めて会員向上室室長兼副理事長という大役を与えていただきました服部理事長と委員会メンバーまたLOMのメンバーに感謝致します。また本年得た経験や学びをラストイヤーとなります次年度に活かしていき、若手メンバーに対して見本となるべく行動を取って参りたいと思います。

「一年間を振り返って」 副理事長 森 大介

まずは、2017 年度副理事長兼青少年共育室室長という担いと機会をいただきました服部良太理事長に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。そして、このような大役を務めさせていただくにあたりは、西岡信幸委員長を始めとする青少年共育委員会のメンバーの皆様にお支えいただき、なんとか 2017 年度を終えることができました。改めて、感謝申し上げます。

この役職を通して、2017 年度を振り返ると、感謝と反省しか出てまいりません。私のもとで委員長職を引き受けていただきました西岡信幸委員長におかれましては、私の拙い指導により、多大なる迷惑をおかけしてしまったことと存じます。委員長のやりたいことをやりたいようにやらせてあげたいという想いと理事長所信とのギャップを埋められるようにうまく導く事ができず、事業構築の段階では様々な案を作っては廃案にしてまいりました。そんな中でも、5月例会「親が学べば子供も変わる！～サカイメソッドで親子チャレンジ～」では、愛知ブロック協議会による褒賞を受け、7月から8月にかけての「いちのみやキッズタウンプロジェクト」では、各方面からお褒めの言葉を頂戴するなど、委員長・委員会・事業が輝きを放つという室長冥利につけることが多々ありました。改めて西岡委員長と委員会メンバーに感謝を申し上げたいと思います。



事業の内容としては、例年になく、メンバーだけではなく地域の親も事業の対象とすることで共育を実現させるということに挑戦した一年でした。5月例会では、講演と実行の部分で親に学びを提供することができましたが、「いちのみやキッズタウンプロジェクト」では、まだまだ改善の余地があり、今後の事業継続に楽しみを残してしまう格好となってしまうしました。

個人的に、次年度はさらに大きな役を拝命しておりますが、2017年度の反省をしっかり生かし、2018年度において、お支えいただいた皆様に感謝をお返ししたいと存じます。

1年間、本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」 副理事長 山岡 大介

2017 度、副理事長兼総務室室長を務めさせていただきました。個人で士業を営む私にとって、自らが実務を行うのではなく、実務を行う委員長を指導、監督する立場に立つというのは得がたい経験でした。まずは、このような機会を与えていただいた服部理事長に御礼申し上げます。

思えば、今年は、どうすれば委員長を始めとするメンバーに、意気を感じて JC 活動に取り組んでもらえるかを考え続けた 1 年でした。褒めれば気分よく取り組んでもらえるか、叱れば発奮してもらえるか、自主性に任せてみてはどうか、飴と鞭ではないが諸々組み合わせることが必要なのではないか等々、企業を経営する方であれば日々当然のように行われていることなのでしょうが、私にとっては経験のないことで、想定外の反応に戸惑うことも多く、結局、怒ってばかりだったように思います。



そのように未熟な私に担当されながら、委員会をよくまとめ、各事業を成功に導いてくれた青山委員長、三嶋委員長には最大限の感謝を申し上げます。特に、青山委員長に対しては、私ってこんなに怒れるんだ、と、新たな自分を発見してしまうくらい怒ってばかりでしたが、彼は決して腐らず、革新的な JC だよりを発行する等の成果を上げてくれました。また、三嶋委員長も、公私ともに多忙の中、そつなく業務をこなしてくれました。両委員長が居てくれたから、私も何とか 1 年間やって来られたのだと思います。

以上のように、室長として委員会の運営について指導、監督することに手一杯で、副理事長として組織全体の運営に目を向けることが十分にできなかったことは反省点です。今年は公益社団法人格を取得して 3 年目、愛知県による監査が行われる年なのだから、総務担当副理事長として、財務関係の証憑書類の管理等を含め、より適切な管理、提言等をすべきだったと反省しています。

最後に、私が 1 年間職責を全うすることができたのだとすれば、それは、私に関わっていただいた皆様のおかげにはかかなりません。本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」 事務局長 光楽 朋尚

昨年の渉外委員長に引き続き、事務局長の職を受けさせていただきました。この事務局長のお話を加藤専務からお聞きしたとき、私の中では二年度理事というのは考えもしていませんでした。加藤専務から「事務局長は理事の扇の要だから、二年度理事にして欲しい。理事メンバーを纏めて欲しい。」という話をいただき、自分なんかには理事メンバーを纏めることができるのであろうかという不安を抱きながらスタート致しました。

この1年間理事の皆様には無理を申し上げました。理事の皆様には今年すべての議案で期日を守っていただけました。私も昨年委員長をしており、議案を書きましたので、大変なことはわかっています。その無理を承知で敢えて厳しいことを申してきました。この1年間、議案締め切り日に議案を配信するという事務局長としての約束事を決めました。それができたのは、理事の皆様のお力があってだと感謝しております。本当にありがとうございました。



また、1年間理事会を滞りなく開催できたのは、事務局次長の高垣遵君のお蔭です。私に不満を漏らすことなくついてきてくれました。本当にありがとうございます。私が昨年の役員選出総会で申ししておりました、「次長を来年委員長にする。」ということが達成したことが大変嬉しく思っています。来年飛躍していただきますことを心より願っております。

この1年間、服部理事長には本当に色々なことを学ばせていただきました。理事長としての立ち振る舞い方、挨拶、ものの見方、すべての面において素晴らしいもので、そしてメンバー皆に気を遣っていただき、優しくかったです。その服部理事長と一緒に過ごせたことが私の誇りです。理事長という立場ではなく、人間としてこのような人でありたいと思わせていただける方でした。

最後にこの経験を次年度以降につなげていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

渉外委員会 委員長 野田 敏弘

まずは、1年間渉外委員会の委員長として職務を全うできたことにほっとしています。加藤副理事長から声をかけていただいた時は、渉外委員会ということで正直、一度も配属されたことのない委員会で一宮青年会議所が東海地区の事務局を担うということで本年度の渉外委員会への担いの重さを考えた時に不安しかありませんでしたが1年間を終えて思ったことはすごく充実して楽しかったということです。

最初はやらないといけないことが多いし嫌だなと思いましたが初めて委員会を持つということもあり委員会メンバーに委員会や各種大会・事業・会議に出席してもらうにはどうしようか悩みました。実際に基本方針の作成に取り組む前に決めたことは自分自身がどのように活動するかを決めました。



結論は常に笑顔で楽しむことそして一期一会の気持ちを持って活動することでした。本年度の肝である『とうかい号』に関しても例年に比べてあり得ない募集ノルマがありました結果は達成できなかったですが多くの皆さんに協力していただけましたし、乗船者支援も自分ができる限りで乗船者の皆さんと接しました。

また出向者の方々への支援ということも常にどうしたら支援になるかを考えておりました。『一体感』という部分に関しては次年度以降も更によくしていく為にやっていきたいと思えます。初年度理事の時は感じなかった部分が多く自分自身成長できたということは実感しております。正副理事長・LOMメンバーの皆様、ご協力ありがとうございました。そして委員会メンバー感謝しかございません。ありがとうございます。次年度の委員長さん絶対苦しいですが楽しむことをオススメします。

「一年間を振り返って」

総務委員会 委員長 三嶋啓一郎

青年会議所への活動に対して必ずしも積極的ではなかった私が委員長という職務を本当に全うできるのか不安で仕方がなかったのですが、なんとか1年を終えることができ、支えていただきました理事会構成メンバー及び委員会メンバーには本当に感謝しております。



賀詞交歓例会は正直よくわからないまま業務に追われ、終わっていったような感じでした。賀詞の経験がある山岡副理事長や白木副委員長がいなければ、うまく成功させることはできなかったかと思えます。

賀詞が終わるとすぐに総会や LOM 基本資料の発行があり、賀詞の決算報告が終わったくらいでやっと落ち着くことができ、理事もしくは委員長として青年会議所への活動にしっかりと貢献していこうと考えていました。

しかし、家庭内に不幸があり、青年会議所活動を行うことすらままならない時期もございました。正直続けていけるか不安でしたが、この時に、暖かいお言葉をたくさん頂戴し、本当にありがとうございました。この恩をいつかかえしていきたいと考えています。

サマコンは参加できなかったのですが、少し落ち着いた頃、全国大会があり、参加させていただきました。2泊3日でしたが、多くのメンバーを交流することができ、本当に楽しかったです。

その後、また家庭がバタバタしてしまい、臨時理事会を開催させてしまったことは本当に申し訳なく思っています。皆様の大切な時間を私のために使っていただき本当に申し訳ありませんでした。

総務委員会の仕事は、每期同じようなことになりがちですが、逆に言えば、知らないとできないことが多いです。決算議案では仕事の手順を文書化することを意識しました。この手順書が今後さらにブラッシュアップしていくことを期待しています。

2018年は、また副委員長として1年を過ごすことになりました。委員長を経験したからこそできる副委員長像をめざし行動していきたいと思えます



「一年間を振り返って」

広報交流委員会 委員長 青山 直生

本年度、広報・交流委員会の主な活動として、一宮青年会議所の広報活動とメンバー同士の交流と姉妹 JC 大邱江北 JC との交流を行いました。

交流活動において、大邱江北 JC の来日と 6 月交流例会を合わせて開催いたしました。姉妹 JC 大邱江北 JC への理解を深めることと、メンバー全員で楽しい交流を通じて想いを分かり合い、LOM が一体となるきっかけとなればという想いで、100%例会を目指し開催させていただきました。結果として 100%の出席を達成することはできませんでしたが、メンバーの多くの笑顔と大邱江北 JC 来日メンバーからの感謝の言葉をいただき、メンバー同士の絆を深め合とともに異国の JC メンバーとの貴重な友情を育むことができたのではないかと感じています。11 月の訪韓の際は 13 名という多くのメンバーと訪韓し、訪韓の際も楽しい思い出をメンバーと共有できたと感じています。

広報活動では伝わる側の視点に立った広報を目指し、まずは我々メンバーの身近にいる人びとから一宮青年会議所の魅力を伝えたいという想いで活動を行ってまいりました。広報委員会として一宮青年会議所が行う事業はもちろん各種大会、会議をはじめ多くの青年会議所の事業や LOM の事業に至る準備の段階にも伺いました。



私自身、大きく心を動かされた部分があります。そして、青年会議所活動の意義というものを少しわかったように感じました。そして、仲間の活躍をホームページや Facebook になるべく多く投稿し、一宮青年会議所の仲間の活躍をメンバーに伝えたいという想いで活動しました。

一年を通して、委員長として議案作成段階から実働まで、担当副理事長やスタッフ、委員会メンバーに多大なご迷惑をお掛けすることとなってしまいました。やらなければいけないことが多い中でイメージを膨らませることの難しさを痛感し、今思えばもっと時間に余裕を持って動くべきであったと深く反省しています。決して良い委員長とは言えない私でしたが、委員会メンバーには多くの助けをいただきました。心より感謝しております。この経験を生かして、一宮がより良くなるよう貢献していきたいと思えます。

「一年間を振り返って」

まち
地域のブランド醸成委員会 委員長 福田 晋也

2011 年下期入会として、この一宮青年会議所に入会させていただいて予定者、セクレタリー、副委員長と様々な役職を経験させていただきました。しかしながら、他の同期入会のメンバーに比べても決して褒められた経歴でもなくゆっくりと JC ライフを過ごさせていただきました。というのも自分には委員長なんてできるはずもないと考えていたからです。一つだけ決めていたのは、選んでいただき役を受けた以上その方に自分のできる範囲ではあるがしっかりとその役職を務め上げたいと思っていたことでした。



2016 年に地域のブランド醸成委員会の委員長を拝命することになり、選んでいただいた以上、しっかりと勤め上げたいと思っておりました。いざ始めてみると、自分が考えていた以上に委員長職は負荷の大きいもので、何度も心が折れそうなこともございました。こんな私が、委員長職を務められたのも、スタッフ始め委員会メンバー、理事会構成メンバー、LOM メンバーの皆様の支えがあってこそだと強く感じました。一つだけお願いがあります、スタッフ委員会メンバーは委員長を支えてください、LOM メンバーは事業例会の時にはしっかりと参加し事業目的を遂行してください。最後になりますが、皆様には感謝の言葉しかございません。本当にありがとうございました。



「一年間を振り返って」

青少年共育委員会 委員長 西岡 信幸

まずは1年間を振り返るにあたり当委員会の例会・事業にご参加いただきましたメンバーの皆様には心から感謝を申し上げます、本当にありがとうございました。

本年度の青少年共育委員会は未来の「今」を担う子供たちの「生きる力」を共育する活動を行って参りました。子供たちの「生きる力」を育むためにはただ子供たちに体験・経験させるだけではなく私たち大人が未来の「今」を創る子供たちに怒ったり叱ったりするのではなくただ手を差し伸べるだけではなく、どうしたら悟られせるように導くことができるかを学ばなければなりません。5月例会「サカイクメソッド～親が学べば子供も変わる！！～」では親子でのサッカー体験を通して子供との接し方・コミュニケーションの取り方を地域(まち)の大人に学んでいただき「大人が学ぶことの大切さ」を学んでいただきました。「親が学ぶ」という今までの青少年事業では初めてのテーマでの挑戦でしたが LOM メンバーの皆様のご協力でも何とか無事にやり遂げることができました



後日、保護者の方々から「親子関係を振り返る良い機会となった」、「自分で決断させること、その子の20年後・30年後を親として見つめることなど子供と触れ合うヒントとなった」とのお言葉をいただきました。そして何より「子供と参加できて良かった、今度は別の事業に参加したい」、「こんな良い活動している団体があることを初めて知った、また子供と参加したい」など、一宮青年会議所を知らない一般参加者の方々に活動を少しでも知っていただくきっかけになれたのかなと思っております。そしてこの積み重ねが一宮青年会議所の活動を地域(まち)に伝播することで「明るい豊かな社会の実現」につながっていくのではないかと思います。



8月例会では「一宮キッズタウンプロジェクト～みんなでつくりよう子供のまち！！～」の公開事業・公開例会を開催させていただきました。子供たちが目的意識を持って行動できるようになるためにはどのような事業が良いのか、その中には野外活動でこそ「生きる力」が身に付くのではないかと、なぜあえて好評の継続事業のキャンプを辞めて新しい事業を行うのかなど意見を委員会内でも一般市民の方からも同様の声を多数いただきました。

しかしながら今回の事業目的を達成するには県外での野外活動ではなく地元一宮で青年会議所の青少年事業を行い一宮市民に活動を認知していただき伝播していただくべきだと考え実施させていただきました。この一宮キッズタウンプロジェクトは他の団体様が行っているような大人が用意したパッケージを行う職業体験事業や経済観念を理解してもらう事業とは違い、自分たちで考えて目的意識を持って行動することに重きを置きました。参加していただいた大人には「見守」ことはただ外から子供を見ているだけではなく、どう接すれば子供たちが自分たちで目的意識を持って行動できるようになるかを考えてもらうように呼びかけさせていただきました。例会の中で全て子供にやらせて外からただ「見守」っていた大人や、子供たちと一緒にしてお店を作っていたメンバーもいて、同じ「見守」でも個人差が生じていました。今回のような事業は大人が事業の内容や仕組みを理解した上で子供たちに事業目的を達成してもらうにはどうしたら良いか考えてもらうことが大事だと考えます、こうした反省点は次年度の委員長にしっかり引き継いでいきたいと思っております。最後になりますが私自身がこの1年間の活動を通して多くの学びをいただきました。委員長として委員会運営や大きな事業を設営することの難しさを経験させていただきました。



5月例会に関しましては愛知ブロック大会褒章事業「AWARDS AICHI 2017」青少年部門を受賞させていただきました。これも本当に委員会メンバーをはじめ LOM メンバーの皆様で受賞した賞だと思っております、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。この1年間の経験をしっかりと今後の青年会議所活動を通して LOM に還元していきたいと思っております。自分を信じて最後まで力を貸してくれた委員会メンバーの皆様本当にありがとうございました。委員会メンバーの皆様がいてくれたからこそここまでやってきました。本当に感謝しかございません。ありがとうございました。そして1年間お力を貸してくださいました LOM メンバーの皆様ありがとうございました。また主旨をご理解いただき協力してくださいました皆様、そしご参加いただきました全ての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

真のリーダー育成委員会 委員長 青木 俊宏

LOM メンバーの一人ひとりが組織を導くことのできる真のリーダーになるために、思いやりをもった人を大切にすることを学び利他の精神を養うことで、人間力を高めることを目的に「7月例会利他～本気で相手のために思う」を開催しました。

プレゼン、講師のお話、ディスカッションを通して「利他の精神とは何だろう」と深く考えてもらい、実際に利他の精神で経営にあたっている講師の話から、「利他の精神」は良いものだ、必要なものだという思いをもってもらいました。また、利他の精神というものは、気づいた時、そのような思いで人と関わろうと思った瞬間から養えるということを理解していただきました。特別な人だけが持ち合わせた人間性ではなく、自身の考え方を変えることで誰でも身に付けることが可能という認識が持ていただきました。

アンケート結果からも自身の考え方を变えることで誰でも身に付けることが可能という認識が深まったと感じました。



誠実さと正しい倫理的価値観を身に付け、意思の強さと行動力を高めます。そして、これらを備えた人間力の高い真のリーダーを育成することを目的に「11月公開例会 人間力向上～大震災から学ぶ真のリーダーの育成～」を開催いたしました。

構成要素ごとにケーススタディと講師のお話を聞いていただくことで、「人間力の要素を具体的に意識しながら今後の人生をいきていこう」と思っていました。これらを通じて人間力を学び人間力の高い真のリーダーになれるきっかけをつかんでいただいたかと思いません。

11月例会では、ケーススタディで人たちの考え、また自分以外の周りの人達の考えが聞けたことで、学びの質が深まり、広がりがありました。中井氏にご講演いただいたことはこのエリアの一般参加者および我々青年会議所メンバーにとって経験したことのない話であり、非常に興味をもって聞くことができました。人間力とは何か、要素を3つにわけてお話していただいたことで、より理解が深まり、またその能力を備えているとどのような結果になるのかを実際の経験からまなぶことができました。参加者からも人間力について学び、かわれるきっかけをつかむことができたという意見をいただきました。



最後にまず一年間を振り返るにたり私ども委員会の例会に参加いただきましたメンバーの皆様にご心からお礼申し上げます。本年、真のリーダー育成委員会は、総勢12名のメンバーで活動してまいりました。人間力というテーマは非常に難しく人によって人の魅力は違いましたが、どれも正しいのではないかと感じました。基本方針を作るところから非常に難しく苦戦したことを今でも鮮明に覚えています。

委員会運営に関しても、初めての委員長であり、何をどうしていいかわからず、スタッフや委員さんに大変迷惑をかけたと思っています。「こんな内容では議論にならない。私たちの時間を無駄にしないでください」とおしかりをうけたこともありました。この時にお叱りを受けたことで、しっかりとやらないと全員に迷惑がかかると本気になったと思います。事業計画2では、議案の取り下げを体験しました。この時は本当に腹が立ち、つらい気持ちになりましたが、今となっては、私の力不足、勉強不足が招いた結果だったと反省しております。しかし、一方でスタッフメンバー、委員さんの団結や助け合いを感じました。たくさんの調べ事、打ち合わせ、資料づくりをこなしてもらいました。スタッフ・委員会メンバーがいなければよい知恵も案も出ませんでしたし、添付資料の作成も間に合いませんでした。

本当に感謝しております。最後に委員長のためならやりますよ。という言葉が私にとって一年間のご褒美でした。

理事会では正副理事長の皆様にご助けいただき、LOMメンバーの皆様には、一般参加者募集に関して本当に大勢の方に助けいただいたことに感謝しております。ありがとうございました。

この一年で組織運営に関して、会議体の責任者の事前準備、実際に意見を取りまとめてよりよくしていくこと、形にすること、スタッフメンバーに実際に動いてもらえること、など本当に多くのことを勉強でき、自己成長させていただきました。素晴らしい経験・勉強をさせていただき、本当にありがとうございました。

最後になりますが、服部理事長をはじめとする理事会構成メンバー、LOMメンバー、委員会メンバーの皆様にご最後までお付き合いいただき、心より感謝申し上げます。今後はこの経験を微力ながら皆様にご還元できるよう努めてまいります。本当にありがとうございました。

「一年間を振り返って」

LOM の基盤構築委員会 委員長 秋田 雅之

私たちLOMの基盤構築委員会は1年間会員の拡大に向かって活動してきましたが、思うような結果を残すことができませんでした。一宮青年会議所全会員を巻き込む会員拡大活動は非常に難しいと思います。ですが全会員に理解していただくため行動するしかありません。ひたすら行動あるのみです。拡大対象者の情報提供だけに満足するのではなく、拡大対象者にまず会うまでは情報提供者に連絡を取り続けていただくのが大事だと感じました。また、SNSを頻繁に利用してください。会員の皆さんに行動を教えてください。次に、拡大対象者は会うことはできても、必ず入会申込みをいただけるとは思わずに、初回で拡大対象者と十分に話ができるように心がけてください。2回、3回と繰り返すうちに入会の意識は薄れていくように拡大活動をして感じました。クローズングまでに会う回数は多くても3回だと思います。それ以上会う回数を増やしても、入会申込には繋がりませんでした。行動があつての手法だと思います。とにかく行動してください。本年度は14名の入会申込者になりましたが、この14名に入会申込みをいただくのには多くのメンバー、また先輩方のご協力、ご支援があつてのことだと思います。本当にありがとうございました。会員拡大活動はどこかで終わりではなく、永遠に続いていくことだと思います。委員長の任は終えますが、会員拡大はこれからも続けていきます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



今年度は正会員予定者を8名正会員に導くことができました。これは我々委員会メンバーだけでなく、一宮青年会議所メンバー皆様のお力添えによるものと思います。本当にありがとうございました。感謝申し上げます。この度、委員長という大役を仰せつかり、正会員予定者を正会員へ導くことが本当に自分にできるかどうか不安でしたが、皆様のご協力によりなんとか6ヶ月間のオリエンテーションを乗り切ることができました。ありがとうございました。2017年度は一宮青年会議所のリーダーへと成長できるように、正会員予定者に一宮青年会議所会員として自覚を持たせて、正会員予定者の器量を向上するとともに、入会3年未満の会員を含め何事にもチャレンジする勇気と思いやるこころを持った、LOMの基盤となる人材を育成することを目的にオリエンテーションを開催させていただきました。今年度の全6回のオリエンテーションは入会3年未満の正会員向けにも5回目、6回目を対象に開催しましたが、正会員予定者のオリエンテーションに正会員が参加する形式をとるのではなく、入会3年未満正会員の研修に、正会員予定者が参加をする形式をとる設えにするべきと考えます。正会員向けの研修事業を全面に出して正会員の参加を多く促し、正会員が出席をしないと正会員予定者に示しが付かないとなるような設えが必要と思いました。最後に、本年は11名の正会員予定者から始まり正会員になったのが8名でした。正会員予定者を正会員にするためには委員長だけでなく、また委員会メンバーだけでなく一宮青年会議所メンバーの皆様のご尽力のおかげであります。正会員予定者を担当する委員会ではありますが、メンバー全員が一丸となって正会員へ導くこのやり方を今後も続けていただけると、多くの正会員になると思います。半年間ご指導、ご鞭撻いただきました皆様、本当にありがとうございました。



3月例会では、第一部として4青年会議所の拡大活動を報告し、一宮青年会議所が拡大活動の参考になることお伝えさせていただきましたが、もっと会員の皆様一人ひとりにまで参考になる拡大活動を具体的に示せば、さらに皆様の拡大活動意識が向上できたのかと思います。第二部では2015年度公益社団法人日本青年会議所拡大委員会委員長白旗夏生先輩を講師としてお招きして「拡大方程式」を学んでいただきました。

「拡大方程式」の中では拡大リストの重要性、共有化が大事であることお伝えさせていただきました。ですが、「拡大方程式」のどのような点が参考になり理解できたかわからず、アンケート内容を「拡大方程式」のどのような点が参考になり理解できたかを聞く内容にすれば良かったと今では感じております。第三部では、白旗先輩、古越君、服部理事長によるパネルディスカッションにより、服部理事長からは拡大目標数また白旗先輩、古越君からは拡大方法の参考になる内容を会員の皆様に伝えることが出来たと思います。しかし外部講師と、伝えていただきたい内容を掘り下げる打ち合わせをもっと密に行えば、一宮青年会議所の拡大活動を定義できるところまでできたかと感じます。拡大の重要性を理解していただいても、拡大活動につながる意識変革までは当例会では出来ませんでした。意識向上も重要ですが、仕組みづくりを考える内容を盛り込むと会員の皆様によりご理解いただけたかと感じます。

最後になりますが、本年、LOMの基盤構築委員会は8名で活動させていただきました。アカデミーと拡大活動を担当させていただきました大変勉強になる1年間を送ることができました、感謝申し上げます。ありがとうございました。最後に委員会メンバーの今後ますますのご活躍とご発展を願って報告とさせていただきます。

1年間本当にありがとうございました。



監事所見

浅田佳寿優 野杵晃充 野田一郎

公益社団法人格を取得し、公益従事者比率の関係から委員会配属の人数が不均衡になってから4年が経ちました。毎年感じることですが、対内事業を行う委員会の出席率が高いのに対し、対外事業を行う委員会メンバーの出席率が低いことが本年も目につきました。初年度理事が多く、議案作成や公式事業の出席に追われ、委員会運営に苦労されていた印象を受けました。また、本年から議案フォームを刷新し、日本JC本会に属する形式での作成を依頼しました。議案フォームが異なるという慣れない苦労や個々の議案や事業に追われ、視野が狭くなり理事同士の繋がりや助け合いが弱かったように感じました。そのような影響もあり、退会者が多く出てしまったことも非常に残念に思います。一人拡大することも一人退会者を減らすことも変わりはありません。最も大変ではありますが、最もやりがいのある理事の皆様が率先して、LOM全体の一体感を構築していく気概をもっと強く出ていればよかったと感じています。

これから3年で一宮JCは大きな転換期に突入します。経験あるメンバーの大半が卒業し、否が応でも入会間もないメンバーが一宮JCを運営していくこととなります。今後3年間は理事長が掲げる事業を展開していくとともに、とにかく拡大人数の数値にこだわってほしいと思います。今後、一宮青年会議所を支えてもらうための人財として、数にこだわる「量」的拡大と理事を受けられるメンバーを増やす「質」的拡大をバランスよく行っていかなければなりません。

全国で8番目に出来た「NO.8」「シングルナンバー」という名誉ある称号を維持し、再び光り輝かせるために、メンバーの見識を深め、実行力を高めていただきたいと思います。過去の前例に囚われず、より高い視座で未来を見つめ、勇気を持って新しいことに挑戦してください。地域の活性化には、一宮JCメンバーの若い力が不可欠です。メンバー一人一人が社業と地域貢献を両立させ、一宮青年会議所のバトンを未来の世代へ継承していくことを願っています。

「公益社団法人日本青年会議所東海地区協議会」に出向して

東海地区運営専務 野田 一郎



本年度、東海地区協議会の運営専務として出向させていただきましたことに服部理事長はじめメンバーの皆様にも多大なるご支援をいただいたことを心より感謝申し上げます。今年は地区担当常任理事・東海地区協議会 会長輩出 LOM ということで、周りから見られる立場となりました。

一宮青年会議所に泥を塗らないように誇りとプライドを持って一年間出向活動に取り組んできました。一宮青年会議所は出向の文化がそれほど多くあるわけではありません。出向は LOM の活動との二束のわらじとなり、時間も金銭的にも負担が増えるのは間違いありません。しかし、一宮青年会議所では出会えないような豪傑ともいえるメンバーと知り合うことができます。また、他 LOM の賀詞交歓会や周年式典に参加し、LOM の例会内容なども情報交換できることで知識や見識を増やすことができます。それを一宮青年会議所メンバーに伝えていくことで、新たなアイデアを生み出す一助になるものだと思います。ぜひ、卒業するまでに一度は出向をしてみてください。今年一年間、本当にありがとうございました。

「公益社団法人日本青年会議所東海地区協議会」に出向して

東海地区事務局長 大島 航



一宮JCの看板に泥を塗らぬよう、野村会長の顔に泥ぬらぬよう、そんな思いで東海地区協議会の事務局長を担わせていただき、

1年間我武者羅にやってきました。

とても貴重な経験を数多くさせていただき、濃密で充実した時間でした。出向を認めていただき多大なる支援をしていただきました服部理事長を始めとする全てのメンバーの皆様にも感謝を申し上げます。苦しい時もありましたが、間もなく任期を終えようとしている今、間違いなく出向して良かったと思っています。今年学んだことを来年以降LOMで還元するするとともに、社業や地域に活かしていきたい、役員として出向した2017年度の価値を更に高めることをお約束させていただきます。

最後になってしまいましたが、全てをサポートしてくれ、いつもそばにいてくれた事務局出向メンバーの皆に心からの敬意を表するとともに最大限の感謝を申し上げます。1年間本当にありがとうございました。

「公益社団法人日本青年会議所東海地区愛知ブロック協議会」に出向して

国際力溢れる愛知創造委員会 副委員長 今西 達也



本年度、愛知ブロック協議会国際力溢れる愛知創造委員会に副委員長として出向させていただきました。愛知ブロックの出向でしたが担いが名古屋会議での公開委員会の開催とASPAC ジャパンナイトでのブース出展といった JCI の運動に係る内容でした。

名古屋会議での公開委員会では日本 JC の UN 関係委員会より仲泉委員長と下道 VC を講師としてお招きし SMAILbyWATER について講演いただきました。ASPAC ではモンゴルにて愛知のモノづくり文化について管人形と VR と愛知県産のロボット展示の設えとしました。多くの海外の JC メンバーと触れ合うことができ、人生で初めての海外でしたが非常に貴重な経験をすることができました。また、担当ではありませんでしたが、世界会議のジャパンナイトのブース出展でオランダにも行くことができ、海外の JC メンバーと知り合いになることができました。こういった ASPAC や世界会議に一宮 JC としても是非ブース出展して一宮の魅力を世界の JC メンバーに伝えればと思います。

JC をふりかえって 卒業生 青山 広巳



まずは5年間という短い時間でしたが、今までJC活動を通じて出会えました全ての皆様に感謝申し上げます。2012年に入会させていただきましたが当初の私はJC活動に対し、無知であり、疑問が多く、仕事の時間を圧縮してまでする活動を肯定できませんでした。しかしながら、参加していく中で、多くの仲間と出会い、その活動の意義を感じ、本当に充実したJC活動を送ることができました。最高のメンバーにも恵まれて自分のやりたいこと、全てやらせていただきました。

後輩の皆さんに伝えたいこと、それはJC活動の源は人であるということです。人を動かすには人の心でしかありません。人の心が動く時はどんな時でしょうか？それは絆を築けた時です。同じ時間を同じ場所で共有することにより徐々に築くことができます。よく入会の間もないメンバーから何が楽しいのか？事業に行かなくてははいけませんかと聞かれたことがあります。それはきっと、事業の意義を知ることもなく、メンバーとの絆も深まっていないからだと思います。理事メンバーには、若いメンバーに対し、何事にも積極的に参加を促し、色々な人との友情、絆を築けるように努めて頂きたいと思います。そして、JC活動を楽しみ、参加するメンバーが楽しめるコンテンツを増やしていただきたいと思います。時間とお金を使って活動し、議案を練り、事業を開催することは本当に大変で苦しいこともあるかもしれませんが。だからこそ、やっている本人が楽しまなくては参加する人達はついてこないと思います。今後のJC活動大いに楽しみ頑張ってくださいと思います。

JC をふりかえって 卒業生 加藤 貴泰



まず、この素晴らしい一宮青年会議所に2009年に入会をさせていただきましたことを感謝しております。

9年間様々な活動をさせていただきましたが、全ての活動が自分自身にとって刺激であり、学びでありでありました。この青年会議所活動の中で得られたものは仲間です。

当たり前のことですが青年会議所活動は「人」がいなければ成立しません。しかし、ただ「人」がいればよいという訳ではありません。その「人」をどのようにして「仲間」にしていくかが非常に重要です。この仲間づくりを現役の皆さんには学んで大切にしてほしいと思います。

皆さんはどれだけ他のメンバーと同じ時間を過ごしていますか。どれだけ青年会議所活動以外でも同じ時間を共有していますか。仲間づくりの重要な要素は時間です。今一度この限られた時間というものを見直していただき邁進していただければと思います。

最後に一宮青年会議所が素晴らしい仲間たちで溢れ素晴らしい活動をしていただくことを祈念しております。

JC をふりかえって 卒業生 倉田 健嗣



2014年に入会し4年の活動期間を経て一番感じたことは、努力の先には必ず様々な形となって結果がついてくるということでした。社業では味わえない苦勞、その苦勞を乗り越えるための努力、そしてその努力の先に得た喜びが活動の中で一番の得た財と感じていました。

そこには決して一人でのものではなく、JC活動にて出会えた仲間との中で生まれたものと考えます。私としては2016年度に記念事業の担当委員長を受けさせていただいたことが苦勞、努力は仲間がやっていることを他人事にせず共働したこと、そして共に活動を頑張った仲間とやり切った喜び、これこそがJC活動を懸命に取り組んだ者だけが得られるものでないかと考えます。必要なものかどうかは分かりませんが、長い人生においてこのような時間を過ごせる場所は青年会議所活動しかないと思います。

4年間という長いようで短い活動期間を共に過ごしてくれたメンバーの皆さま、そしてこのような経験を与えてくれた一宮青年会議所に心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

JC をふりかえって 卒業生 土川 功介



2011年の下期に入会し、6年半という決して長くはないJCライフを過ごさせていただいき、ほぼ毎年のように何かしらの役職を受けやってきたという満足感と、もう少し長い時間この団体に所属していたかったという後悔と、2つの気持ちの狭間で揺れているというのが今の正直な気持ちです。

長くはないJCライフではありましたが、本当にたくさんの、そしてかけがえのないものを頂くことができました。この地域への思い、地域の人たちへの思い。そしてたくさんの学びや気づき。そしてかけがえのない友人と呼べる仲間たち。入会しなければ間違いなく得ることができなかったものを、本当にたくさん頂いたこの青年会議所という団体に、そして一緒に活動してくれた仲間に、本当に心から感謝・御礼を申し上げます。

これからはいちOBとして、皆さんが活発に活動される姿を見ることを楽しみにしています。本当に、本当に今までありがとうございました。

JC をふりかえって 卒業生 野杵 晃充



29歳で一宮に戻り、地元の友達が欲しいと思い、2008年に一宮JCの門を叩きました。入会当初はJC活動の意義や楽しさを感じられずにいましたが、2009年に出向した愛知BC・アカデミー委員会で、尊敬できる塾長に出逢い、県内に沢山の友達ができることで少しずつJCに対する意識が変わり始めました。

2012年の委員長時代は、仕事や家庭をそっちのけで毎日毎日JC活動にのめりこみました。夢にまで当時の担当副理事長がでてくるくらいでした。しかし委員会スタッフやメンバーに助けられ、2つの対外事業をやり遂げることができて、大きな自信になりました。その後、副理事長・理事長をお預かりし、また2015年からは出向先で様々な挑戦をさせていただきました。ここまで駆け抜けることができたのは、偏にLOMメンバーにお支え頂いたおかげです。一宮JCに入会して本当に良かった。10年間、お世話になりました。ありがとうございました。

JC をふりかえって 卒業生 野田 一郎



2007年に入会した当時は、経験してきたJC観を熱く語る先輩がたくさんいて、本気で喧嘩しているのを間近で見っていたのを懐かしく思います。なぜ、仕事でもないJCに対してここまで熱くなれるのか不思議で仕方がありませんでした。

。しかし、経験豊富な先輩達が卒業を迎えるたびに、LOMの雰囲気も変わってきたのは間違いありません。そして、メンバー同士のつながりがその都度、深まっているかという少し疑問に感じます。「あいつのために俺はやる！」という気持ちを一人一人が持つことで、苦楽を共にするJC活動の先に、今よりもさらにつながりが深くなると思います。しかし、その「つながり」も本気でJC活動に取り組んだものしか得られないものです。

人の器は自分のキャパを超えるような過度なプレッシャーを感じ、それを乗り越えた時に初めて自己成長に繋がります。40歳までの学び舎で社業やプライベートでは味わえない様々な経験を通し自己成長に繋げていただきたいと思います。11年間、本当にお世話になりました。

JC をふりかえって 卒業生 野村 和弘



昨年 2017 年、

また青年会議所活動を振り返ってみて思うことは、活動中は色々と大変なことがたくさんありましたが、卒業までやって良かったと思いますし、それ以上に一宮だけでなく、たくさんのメンバーに出会い人脈が大きく変わり、

自分自身の財産となったことが一番大きいと思います。

今年は特に何十年ぶりに東海地区会長の輩出 LOM として、私も東海地区事務局に出向させて頂き、多くの出会いやたくさんの学びを得られました。40 歳までの限られた活動の中で、人それぞれ自分の想いや、意思是さまざまだと思いますが、私も活動中は 3 つの目標を持ってやっていました。まず 1 つ目は、先の読める、気づける自分になる。私は副委員長までしか経験していないので、委員長の想いはわかりませんが委員長を理解して、意思の疎通ができる関係になろう。(理解=アンダースタンド) しっかりと下支えのできる自分になること。そして 2 つ目、人の見る目を養う。会社の大小関係なく、経営者の集まりが JC。

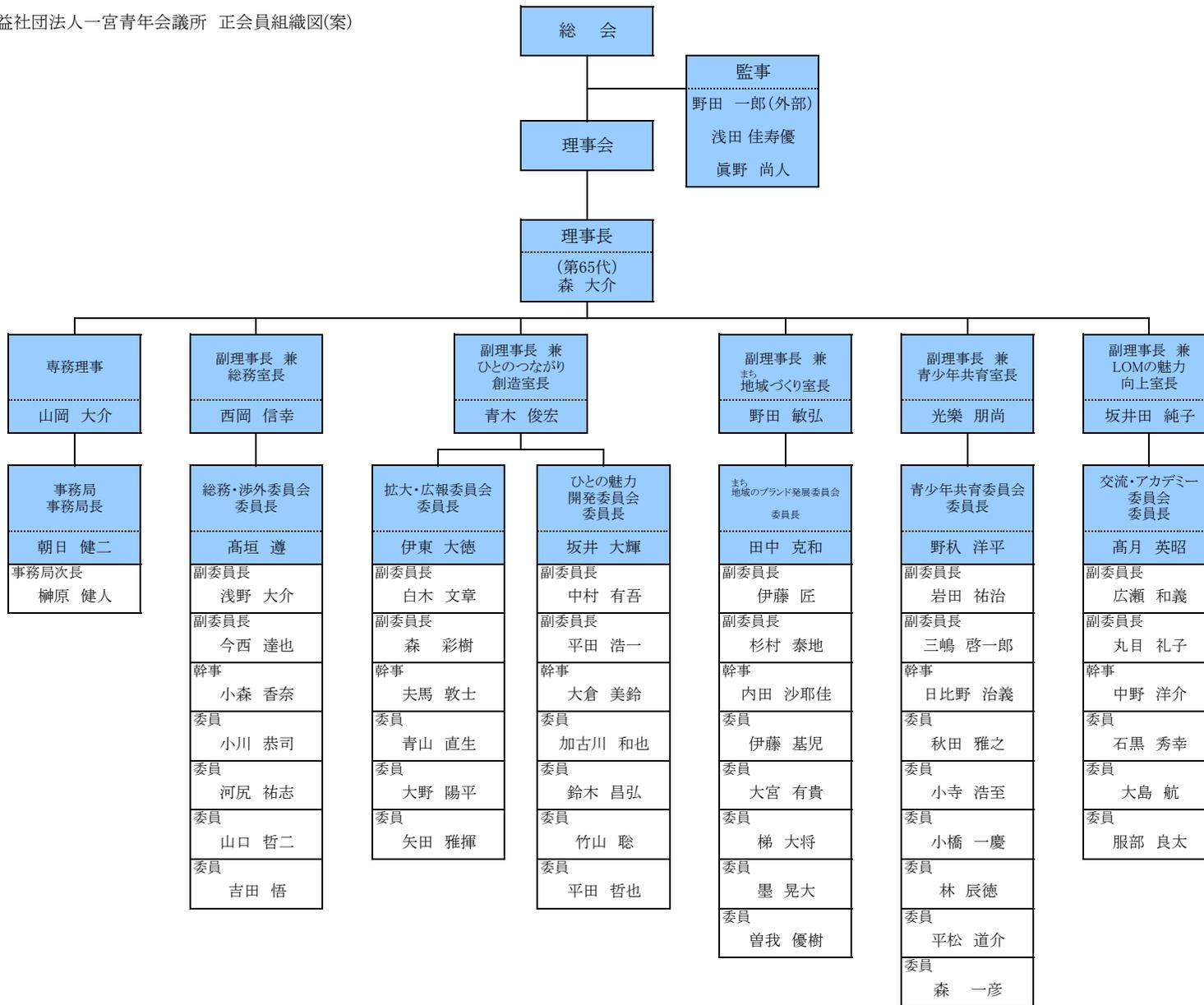
同年代ですごいなと思う人にたくさん出会える場も JC。自分がない物を持っている人との会話や、一緒に行動することで色々な事を学び社業に持ち帰る事。そして 3 つ目、自分が決めたことは責任を持つ。有言実行まさに言葉の通りで、入会を決めたのも自分、役を受けたのも自分で、自分が決めたことに最後までやり続けることが、魅力ある人間なのではないかと考えていました。何か 1 つでもいいから目標持って活動すると、今後の自分のスタイルが変わってくると思いますので、今の自分より少しだけ背伸びして頑張ってください。最後に卒業例会ではたくさんの花束と、たくさんのお祝いの言葉をいただき、その時は皆さんの友情を感じながら、この一宮青年会議所を卒業できたことは、まさに JC の三信条だなあとと思います。そして修練と奉仕に関しては、今まで JC に使ってきた時間や労力を、今度は社業や家庭に還元していく。社業ではしっかりリーダーシップをとり、発展させる。家庭ではしっかりと家族を支える。JC は修練を学ぶ場だと思う。その学んだことをいかに奉仕していくは、これからの自分しだいである。これが自分に与えられた本当の修練なのではないかと思う。ぜひともこれから活躍される現役メンバーのみなさん。残りの年数、役職はさまざまだと思いますが、一日の時間は平等に与えられています。今できることを精一杯やって、自分の成長へとつながる過程だと信じ、後悔のない様に青年会議所活動を卒業まで続けて行ってほしいと思います。短い期間ではありましたが、私に携わってくれたすべての皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

JC をふりかえって 卒業生 福田 晋也



一宮青年会議所に入会させていただき、6 回卒業生を送り出させていただきました。そのたびに残されたメンバーにあとは頼むよと、卒業生の皆様の青年会議所に対する愛着の大きさを感じさせていただきました。

いざ自分も卒業の時期が近づいてくると、この一宮青年会議所に所属させていただいた誇りと大切にしたいと思う愛着をつよく感じました。強い絆と信頼で結ばれた情念をもって行動を継続していただきこの地域が明るく豊かになることを祈念いたしましてお礼の言葉に代えさせていただきます。ありがとうございました。



貸借対照表
2017年 12月 31日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	8,757,365	8,106,705	650,660
未収金	601,000	775,000	△ 174,000
立替金	0	0	0
前渡金	8,000	8,000	0
流動資産合計	9,366,365	8,889,705	476,660
2. 固定資産			
(1)定期預金	29,000,000	29,000,000	0
(2)積立資産	0	0	0
(3)その他固定資産	262,802	515,497	△ 252,695
その他固定資産合計	29,262,802	29,515,497	△ 252,695
固定資産合計	29,262,802	29,515,497	△ 252,695
資産合計	38,629,167	38,405,202	223,965
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金	0	104,941	△ 104,941
前受金	162,000	39,000	123,000
預り金	5,920	4,320	1,600
流動負債合計	167,920	148,261	19,659
負債合計	167,920	148,261	19,659
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産	38,461,247	38,256,941	204,306
正味財産合計	38,461,247	38,256,941	204,306
負債及び正味財産合計	38,629,167	38,405,202	223,965

正味財産計算書

2017年 1月 1日 から2017年 12月 31日 まで

(単位：円)

科 目	決算
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
① 受取入金	240,000
入会金	240,000
② 受取会費	
正会員会費	9,120,000
予定者登録料	480,000
賛助会員会費	40,000
特別会員会費	280,000
受取会費計	9,920,000
③ 事業収益	
登録料収益	400,000
協賛金収益	2,206,366
事業収益計	2,606,366
④ 受取補助金等	
地方公共団体補助金	391,000
受取補助金等計	391,000
⑤ 雑収益	
受取利息収益	4,406
その他雑収益	1,219,742
雑収益計	1,224,148
経常収益計	14,381,514
(2) 経常費用	
① 事業費	
会場設営費	3,818,177
講師関係費	813,762
印刷製本費	745,402
広報費	2,147,286
記念品費	275,134
通信費	410
保険料	11,500
雑費	21,576
事業費計	7,833,247
② 管理費	
会議費	10,000
地代家賃	1,231,200
光熱水料費	65,673
給与手当	1,200,000
福利厚生費	10,524
通信運搬費	119,136
消耗品費	98,134
賃借料	459,688
減価償却費	252,695
会計監査手数料	259,200
国内国際渉外費	54,000
慶弔費	99,616
交際費	125,620
負担金	1,924,190
雑費	104,285
管理費計	6,013,961
経常費用計	13,847,208
当期経常増減額	534,306
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
雑損失	330,000
経常外費用計	330,000
当期経常外増減額	△ 330,000
当期一般正味財産増減額	204,306
一般正味財産期首残高	38,256,941
一般正味財産期末残高	38,461,247
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III 正味財産期末残高	38,461,247

余剰金計算書(案)

自2017年1月1日 至2017年12月31日

本年度余剰金	38,461,247円
上記金額を下記の如く処分する。	
次年度繰越金	38,461,247円

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1)「公益法人会計基準」(平成16年10月14日 公益法人等の指導監督等に関する関係省庁 連絡会議申し合わせ)を採用している。

(2)消費税の会計処理等

税込処理を採用している。

(3)固定資産の減価償却の方法

工具器具備品の減価償却は、定率法を採用している。

2 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び残高は次のとおりである。

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
工具器具備品	1,117,095	854,293	262,802
合計	1,117,095	854,293	262,802

財産目録
2017年 12月 31日 現在

(単位：円)

科 目	使 用 目 的	金 額	
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	本会事業管理・運営の運転資金として		68,154
預金			
三菱東京UFJ銀行一宮支店 普通預金	本会事業管理・運営の運転資金として	1,795,850	
いちい信用金庫一宮支店 普通預金	本会事業管理・運営の運転資金として	4,553,004	
尾西信用金庫本店営業部 普通預金	本会事業管理・運営の運転資金として	2,340,357	8,689,211
前渡金			
京都会議事前登録料	地区・ブロック協議会における前渡額		8,000
未収入金			
一宮市 補助金	本会事業管理・運営における未収額	391,000	
入会金 1名	本会事業管理・運営における未収額	30,000	
正会員会費 2名	本会事業管理・運営における未収額	120,000	
予定者登録料 1名	本会事業管理・運営における未収額	60,000	601,000
流動資産合計			9,366,365
2. 固定資産			
(1) 定期預金			
三菱東京UFJ銀行一宮支店 定期預金	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使	9,000,000	
いちい信用金庫一宮支店 定期預金	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使	10,000,000	
尾西信用金庫本店営業部 定期預金	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使	10,000,000	29,000,000
(2) その他固定資産			
パソコン	本会事業管理・運営のため	1	
収納一式(南側)	本会事業管理・運営のため	140,250	
収納一式(東側)	本会事業管理・運営のため	122,551	
その他固定資産合計			262,802
固定資産合計			29,262,802
資産合計			38,629,167
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金			
LOM基本資料	本会事業管理・運営における前受額	42,000	
2018年度年会費1名	会費過入金のため仮受額	120,000	162,000
預り金			
源泉所得税及び住民税	本会事務局員のための預り額	5,920	5,920
流動負債合計			167,920
2. 固定負債			
固定負債合計			0
負債合計			167,920
III 正味財産			38,461,247

2018年1月4日

公益社団法人一宮青年会議所
理事長 森 大介 殿

公益社団法人一宮青年会議所

監事 浅田 佳寿優 

監事 野田 一郎 

監事 眞野 尚人 

監査報告書

私たち監事は、平成29年1月1日から平成29年12月31日までの事業年度の事業報告書並びに貸借対照表、損益計算書(正味財産増減計算書のことをいい、正味財産増減計算書内訳表を含む。)、その附属明細書及び財産目録(以下、「財務諸表」という。)に関する監査をいたしました。また、併せて公益目的支出計画実施報告書に関する監査をいたしました。

監査意見

(1) 事業報告の監査結果

事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。

(2) 財務諸表の監査結果

財務諸表は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

(3) 公益目的支出計画実施報告書の監査結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

正味財産増減計算書

2017年1月1日から2017年12月31日まで

(単位:円)

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引控除	合計
	公1	他1			
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
受取入金	120,000	60,000	60,000	0	240,000
受取入金	120,000	60,000	60,000		240,000
受取会費	4,960,000	2,480,000	2,480,000	0	9,920,000
正会員受取会費	4,560,000	2,280,000	2,280,000		9,120,000
予定者登録料	240,000	120,000	120,000		480,000
賛助会員受取会費	20,000	10,000	10,000		40,000
特別会員受取会費	140,000	70,000	70,000		280,000
事業収益	2,606,366	0	0	0	2,606,366
登録料収益	400,000				400,000
協賛金収入	2,206,366				2,206,366
受取補助金等	391,000	0	0	0	391,000
受取地方公共団体補助金	300,000				300,000
雑収益	0	0	1,224,148	0	1,224,148
受取利息			4,406		4,406
雑収益			1,219,742		1,219,742
経常収益計	8,077,366	2,540,000	3,764,148	0	14,381,514
(2) 経常費用					0
事業費	7,833,705	2,407,205		0	10,240,910
会場設営費	3,335,726	482,451			3,818,177
講師関係費	804,042	9,720			813,762
印刷製本費	121,230	624,172			745,402
懇親会費					0
旅費交通費		0			0
広報費	1,906,782	240,504			2,147,286
参加記念品	179,240	95,894			275,134
通信費	246	164			410
保険料	11,500				11,500
雑費	15,768	5,808			21,576
地代家賃	607,808	223,119			830,927
光熱水料費	32,421	24,108			56,529
給与手当	360,000	360,000			720,000
通信運搬費	58,814	43,733			102,547
消耗品費	48,446	36,024			84,470
賃借料	226,935	168,746			395,681
減価償却費	124,748	92,761			217,509
管理費			1,682,108	0	1,682,108
会議費			10,000		10,000
地代家賃			400,273		400,273
光熱水料費			9,144		9,144
給与手当			480,000		480,000
福利厚生費			10,524		10,524
通信運搬費			16,589		16,589
消耗品費			13,664		13,664
賃借料			64,007		64,007
減価償却費			35,185		35,185
会計監査手数料			259,200		259,200
国内国際渉外費			54,000		54,000
慶弔費			99,616		99,616
交際費			125,620		125,620
雑費			104,285		104,285
負担金			1,924,190		1,924,190
JCI負担金			16,000		16,000
日本JC負担金			913,190		913,190
東海地区協議会負担金			182,500		182,500
愛知ブロック協議会負担金			534,500		534,500
その他負担金			278,000		278,000
経常費用計	7,833,705	2,407,205	3,606,298	0	13,847,208
評価損益等調整前当期経常増減額	243,661	132,795	157,850	0	534,306
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	243,661	132,795	157,850	0	534,306
2. 経常外増減の部					0
(2) 経常外費用					0
雑損失			330,000		330,000
経常外費用計	0	0	330,000	0	330,000
当期経常外増減額	0	0	△ 330,000	0	△ 330,000
当期一般正味財産増減額	243,661	132,795	△ 172,150	0	204,306
一般正味財産期首残高	0	0			38,256,941
一般正味財産期末残高				0	38,461,247
III 正味財産期末残高			0	0	38,461,247

2017年度財務諸表等適法性確認報告書

公益社団法人 一宮青年会議所

2017年度理事長 服部 良太殿

作成年月日 2017年12月31日

名古屋市熱田区大宝三丁目9番10号

税理士法人 さくら

代表社員税理士 陣田裕司



当税理士法人は、公益社団法人一宮青年会議所の2017年1月1日から2017年12月31日に係る貸借対照表及び収支計算書並びにその付属明細書並びに財産目録、併せて、正味財産増減計算書について通常必要とされる財務諸表の適法性確認手続きを実施し、また当税理士法人が必要と認めたその他の確認手続きを実施しました。

この財務諸表等は依頼者が自ら起票した伝票に基づき、コンピュータ処理により作成した、仕訳帳、総勘定元帳、試算表、固定資産台帳等に基づき作成されております。

日々の取引に関する記録や領収書等はコンピュータ処理により整然と処理され、摘要も詳細に記載されており、疑義を挟む余地のない水準で処理されております。

記帳は事実に基づいて真実性、適時性、網羅性の要件を満たしたものであり適法に処理されていると認めます。